

# 調査・研修等計画届出書

令和 元年 10月10日

瀬戸市議会議長 様

議員名 富田 宗一



政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

## 記

期 日	令和 元年10月29日から 月 日まで (泊1日) (10/30-31も高知県内で視察相)	
調査先・研修名	次世代施設園芸団地	
会場名 (会場所在地)	高知県高岡郡四万十町本堂 707-58 四万十とまと (株)	
調査・研修の目的 (今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)	<p>園芸王国高知に2016年、県内最大面積を誇る4.3haの四万十町次世代団地(次世代施設園芸高知拠点)が誕生した。</p> <p>従来型の約3倍となる軒高6mのハウスには、最新の統合環境制御装置が整備され、温度、湿度・二酸化炭素濃度といったハウス内環境が、コンピューターによって制御されている。</p> <p>県内の3事業者が、約85人を新規採用し、平成28年7月からトマトの栽培をスタートさせ、オランダの最先端の環境制御技術と地元の木質バイオマスエネルギーを活用して、従来の約2倍となる10a当たり38.4tの収量を目指している。</p>	
議長名の依頼	要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要	依頼先(名称)
同行者名	山田治義・富田宗一・小沢勝・西本潤・長江公夫・三木雪実 戸田由久・宮藺伸仁・柴田利勝・高島淳・朝井賢次・11名	

※行程表を添付してください。

# 調査・研修等報告書

令和元年11月14日

瀬戸市議会議長 様

議員名 富田 宗一 

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和元年10月29日から 月 日まで（泊 1日）
調査先・研修名	次世代施設園芸団地
会場名（会場所在地）	高知県高岡郡四万十町本堂 707-58 四万十とまと（株）
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	<p>園芸王国高知に2016年、県内最大面積を誇る4.3haの四万十町次世代団地（次世代施設園芸高知拠点）が誕生した。</p> <p>従来型の約3倍となる軒高6mのハウスには、最新の統合環境制御装置が整備され、温度、湿度・二酸化炭素濃度といったハウス内環境が、コンピューターによって制御されている。</p> <p>県内の3事業者が、約85人を新規採用し、平成28年7月からトマトの栽培をスタートさせ、オランダの最先端の環境制御技術と地元の木質バイオマスエネルギーを活用して、従来約2倍となる10a当たり38.4tの収量を目指している。</p>
調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等	
<p>高知県四万十町に施設園芸先進国、オランダの技術を導入した次世代園芸団地が2016年5月に完成された。</p> <p>総事業費は27億3,600万円で、国と高知県の補助を受けた県内の3社が整備されました。</p> <p>高さ6mの高軒高ハウス3棟、総面積は4.3haで、これは、農林水産省が全国10箇所で展開している「次世代施設園芸導入加速化支援事業」で最大である。</p> <p><b>先端技術</b></p> <p>県は、オランダのウェストラント市と友好園芸農業協定を結んでおり、施設には同市の技術を随所に取り入れている。</p> <p>この施設では、トマトを水耕栽培（養液栽培）し、ハウス内は、温度や湿度、</p>	

二酸化炭素濃度をコンピューターで制御するなど、先進的な技術を導入して、高品質・多収量・周年安定生産を目指している。

また、加温は県産のおが粉を燃料とした木質バイオマスボイラーで行い、化石燃料の大幅な削減に繋げていた。

#### 農業クラスターの形成

県は、さらなる付加価値と雇用の創出を目的として、この施設を核に、関連産業（食品加工や直売、レストランなど）を集積させた「農業クラスター」形成に取り組んで行こうとしている。

#### 調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

従来型の約3倍となる高軒高6mのハウスは、最新の統合環境制御装置が整備され、温度・湿度・二酸化炭素濃度といったハウス内環境が、コンピューターによって制御されている。

県内の3事業者が、約85人を新規採用していた。

オランダの最先端の環境制御技術と地元の木質バイオエネルギーを活用して、従来の約2倍となる10aあたり38.4tの収量を目指している。

高軒高ハウスに養液栽培や統合環境制御装置をフル装備しトマトの周年安定生産技術を大規模実証。

隣接する農業担い手育成センターと連携し、団地での技術実証成果を意欲的な農業者に普及。

（有）四万十みはら菜園、（株）ベストグロウ、四万十トマト（株）、3社と森林組合、農業協同組合、高知県などが構成員としている。当初は大学との連携もあったが、最近はあまり無い。

種苗供給センターも整備されていた。

木質バイオマスボイラーにおいては、当初森林組合と連携をいていたが、現在は独自において、おが粉を生産し供給している。

## 調査・研修の成果・考察

### (瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

水野連区十軒町において、すみ農園があります。この施設も養液栽培のトマト・ミニトマトと露地野菜を栽培。近隣のスーパーや直売所にて販売している。

オーナーの住さんは、会社員から転職され本格的農業女子になりました。

瀬戸市においては、農業塾に取り組んでいます。

瀬戸市十軒町では、地域の中心となる農業者を中心に、今後の地域農業のあり方をまとめた農地プランがあります。

高齢者や後継者不足、耕作放棄地の増加などの「人と農地の問題」があり、5年後、10年後の展望が描けない地域が増えています。地域の皆さんで話し合っってプランを作り、実行していくことによって「人と農地の問題」を解決して行かなければいけないと思います。

今回の視察において、国・県・市・農業従事者が一つとなり若い人材、雇用を含め農業に取り組む姿勢を考えて行きたいと思う。

瀬戸市には、まだまだ農業に取り組む土地は眠っている（農地バンクを活用）と思います。